

県内首長インタビュー④

横瀬町 富田 能成 町長 (50歳)



「自然豊かな山岳のまち」をPRすべく結成された「横瀬町山岳パトロールボランティア」の皆さんと富田横瀬町長（下段右から3人目）

埼玉県秩父地方南東部に位置する横瀬町は、田畑や山林、原野が面積の74%を占める自然豊かな町です。国道299号と西武秩父線が町の東西を走り、駅は「横瀬駅」と「芦ヶ久保駅」の2駅を有しています。日本二百名山の一つに数えられる「武甲山」は、町のどの場所からもその姿を見ることができ、5月の山開きの後には、連日多くの登山客で賑わいを見せています。

■三者一体となった地域活性化への取り組み

芦ヶ久保駅には、「道の駅果樹公園あしがくぼ」が隣接し、年間50万人を超える人が訪れています。道の駅の脇には横瀬川も流れており、鉄道と川に隣接した全国的にも珍しい道の駅です。

昨年、この道の駅と淑徳大学経営学部（三

芳町）、国土交通省大宮国道事務所の3者が一体となって、道の駅の魅力向上に向けた取り組みがスタートしました。連



芦ヶ久保地区の日向山南斜面に点在する13軒の農園が集まった「あしがくぼ果樹公園村」。周辺には、「あしがくぼ山の花道」や「横瀬町農村公園」があり、遠足やハイキングにも最適です。

携事業では、学生による「オリジナル商品の開発」や「町の魅力発信」の企画などのアイデアをもとに取組みを実施し、横瀬町ファンさらなる創出を目指しています。

道の駅のオリジナル商品としては、現在、地元特産の紅茶を使ったソフトクリームや洋菓子が大人気となっており、さらに新たな紅茶などの商品開発について検討してきました。学生から2月に提案をいただき、今年度、製品化する予定です。

また、町の魅力発信では、テレビ等でも取り上げられ、注目を集めている「あしがくぼの氷柱」の会場で「アイスキャンドルアート」を開催し、多くのメディアに取り上げられるとともに、来場者の皆さんからSNSにより発信していただきました。

■音楽によるまちづくり・まちおこし

横瀬町では、埼玉県文化行政モデル市町村推進事業の一環として、毎年夏に「ヨコゼ音楽祭」を開催しています。1981年に横瀬中学校の講堂で「おらが村の世界の調べ」としてスタートした音楽祭は、一時中断されながらも昨年で30回を迎え、今やまちの一大イベントとして定着しています。当初は行政主導型で実施されていた音楽祭ですが、回数を



池袋駅から最短69分で氷の世界が出現します。特に夜のライトアップされた氷柱は、息をのむほど幻想的です。

重ねるうちに、「鑑賞する音楽祭」から「参加する音楽祭」となり、現在は町民が実行委員会を組織し、企画から運営まで町民主体となって実施されています。

毎年2日間の日程で実施される音楽祭は、1日目は「ふれあいコンサート」と題され、アマチュアや若手のプロ音楽家の演奏を、2日目は、一流アーティストを招いて「名曲コンサート」として開催されています。

「ヨコゼ音楽」は、マスコミにも取上げられることが多く、町内だけでなく、県内外から多くの来場者が訪れ、まちの一大イベントとして定着しています。

■町の最大の課題と向き合った計画づくり

横瀬町の前身である横瀬村は、1955年に横瀬村と芦ヶ久保村の合併により誕生し、その後、1984年の町制施行により横瀬町となりました。

合併後から人口は増加を続けていましたが1995年をピークに年々減少傾向にあります。町では昨年度、地方創生の総合戦略を策定しました。その中では、引き続き町の人口の減少が見込まれるが、この厳しい状況に立ち向かうため、人口減少を抑制するとともに、人口減少に耐えうる町をつくっていくことが重要と考え、田舎でありながら都心に近い横瀬町の強みを生かし、様々な取組みを進めていくこととしています。

特に、20代の若者の転出が顕著なことから、UIターン者を含め、若者が秩父地域で働き、結婚、子育てができる環境づくりに力を入れていきます。

■新たなまちの魅力を発信

富田町長は、人口減少を抑制するためには、定住者を増やすことが一番としています

横瀬町の概要

人口(H28年1月1日 一住民基本台帳一)	8,656人
世帯数(同上)	3,350世帯
平均年齢(同上)	48.18歳
生産年齢人口比率(H27年埼玉県(丁)字別人口調査)	59.0%
面積(統計書よこぜ平成24年度版)	49.49km ²
名目市内総生産(H24年度市町村経済計算)	235億1,500万円
製造品出荷額等(H25年工業統計)	301億9,176万円
事業所数(H26年経済センサス)	361事業所

まちのシンボル武甲山を背景に、県内最大級の「寺坂棚田」を季節ごとに彩る「ホタルかがり火まつり」や「彼岸花まつり」は、まちの新観光名所。



が、まずは多くの人にまちの魅力を発信し、横瀬町に足を運んでもらうことで、交流人口を拡大することも有効であると考えています。

交流人口の拡大の取組みのひとつが、昨年発足した「横瀬町山岳パトロールボランティア」です。

「自然豊かな山岳のまち」の魅力をPRすべく、まちを訪れた登山者への声かけや道案内、山登りのアドバイスなどを行っています。また、町内の登山やハイキングに役立つガイドブックを収録した、武甲山をイメージしたキャラクター「ブコーさん」のスマートフォンアプリを提供しています。GPS機能による現在地の標示や経緯度の確認など、情報満載の登山者の必須アプリとなっています。

また、横瀬町は、2015年に公開されたアニメ映画「心が叫びたがってるんだ。」の舞台にもなっており、最近では、若者を中心とする聖地巡礼スポットとしても脚光を浴びています。特に、2009年に閉校となった旧芦ヶ久保小学校は、自然に囲まれた趣のある木造校舎で映画やテレビ撮影にも活用される一方、若者たちのコスプレイベントの会場としても利用されていて、まちの新しい情報発信源にもなっています。

横瀬町は、前述した武甲山やあしがくぼの氷柱の他にも、秩父札所34番のうち、6つの寺が町内に点在しています。また、県内最大級の「寺坂棚田」を舞台に「ホタルかがり火まつり」や「彼岸花まつり」など、季節を彩るイベントが開催され、来場者も年々増加しています。横瀬町では、これら豊かな自然の魅力を発信し続け、横瀬町ファンの創出と、まちの活性化につなげていきます。

